

# 第24回 奈良中心市街地公共交通活性化協議会 議事録

1. 開催日時 平成28年8月19日（金） 10:00～12:00

2. 開催場所 奈良市役所北棟6階 正庁

## 3. 委員

### <出席者>

会長 奈良市長 仲川げん  
副会長 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻教授 藤井聡  
委員 近畿運輸局奈良運輸支局長 木村淳三（代理） 清良井利之  
委員 奈良市自治連合会代表 尾形季久雄  
委員 社団法人奈良市商店街振興会長 正木康雄  
委員 公益社団法人奈良市観光協会会長 乾昌弘（代理） 高橋理孝  
委員 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部総務企画課長 長澤卓夫（代理） 吉光敏洋  
委員 近畿日本鉄道株式会社鉄道本部企画統括部営業企画部長 福嶋博  
委員 公益社団法人奈良県バス協会専務理事 山口勝彦  
委員 奈良交通株式会社乗合事業部長 後藤秀雄  
委員 奈良県タクシー協会専務理事 吾妻孝義  
委員 奈良県タクシー協会奈良市部会業務部長 豊田平和  
委員 奈良県交通運輸産業労働組合協議会事務局長 霧永勝一（代理） 橋義之  
委員 奈良県奈良警察署長 藤本晃章（代理） 松田健嗣  
委員 奈良県警察本部交通部交通規制課長 松浦克仁  
委員 奈良県奈良土木事務所長 梅原馨（代理） 花本純一  
委員 奈良県県土マネジメント部次長 荒和弘  
委員 奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局次長 堀内秀格  
委員 奈良市市民生活部長 外良匡利

### <欠席者>

委員 近畿地方整備局奈良国道事務所長 宮西洋幸

事務局 奈良県県土マネジメント部道路環境課  
奈良市都市整備部交通政策課

## 4. 議事

### ◆事務局からの説明

- (1) 平成 27 年度決算と監査報告
- (2) 連携計画の取組概要と目標達成状況（速報）
- (3) 平成 28 年春期の取組内容と結果（速報）
- (4) 平成 28 年秋期の取組内容（案）
- (5) 連携計画の見直し方針
- (6) 設置規約等の改正

### ◆審議内容（主な意見）（●：委員の意見 ○：事務局回答）

#### (1)連携計画の取組概要と目標達成状況について

- 入込観光客数は平成 28 年度に向けて段階的に観客数を増やして行くということで、未達成ではない。
- 通勤手段への転換割合の数値は、正しくは 342 人であり、平成 25 年に比べ 125 名減少し、転換割合はマイナス 27%で、目標を達成した。
- 通勤手段への転換割合の数値はどのような取り方をしているのか。
- 奈良市の一般職員のうち、市役所庁舎にマイカーで通勤している方の数字である。
- 何か意図的に働きかけを政策として行ったのか。
- ノーマイカーデーの実施や公共交通の利用を、市民だより等を利用して広報をしている。
- 多くの自治体でモーダルシフトを推進する上で、役所から事業所へ呼びかけるときに、最初に役所で行う事例が多い。奈良市の取組で効果があるのであれば、良い事例となる。
- 通勤手当について、市役所の車の通勤手当の基準が、今後は下がると想定されるので、更にマイカー通勤も減っていくと考える。

#### (2)平成 28 年春期の取組内容と結果について

- 春の P&R は、R24 号高架下の実施日数が短い、例年同等の日数か。
- R24 号高架下は、GW 期間中のみの実施で、例年と同等の実施期間である。
- P&R 市役所駐車場と異なる期間に実施している意図があるのか。
- P&R は、来訪される車の量に応じた対応が必要で、GW 期間は特に台数が集中するので、P&R の台数を確保する為に、市の駐車場と併せて実施している。
- P&R の利用者数について、看板を充実させたから利用者が増えたということなのか。
- アンケート調査から、道中で看板を見た方が増加している。看板の設置箇所を精査し、侵入経路ごとに増設したところ、利用者が増加した。その他、広報についても充実を図った。
- 平成 27 年から平成 28 年にかけて取組がどのように変わったのか。
- 関連して、P&R 利用台数の総数はどの程度か。
- まず先の質問について平成 27 年と平成 28 年の違いとして、看板枚数は 60 枚から 111 枚に増加、愛知・三重方面の東名阪、名阪国道に関しては、御在所サービスエリア、道の駅の伊

賀、関宿においてチラシを配布して広報を実施した。つづいて、R24号高架下のP&R駐車場の利用状況について、平成27年の合計台数は545台。平成28年は960台となる。平成27年の市役所駐車場のトータルは、16日間で1056台。平成28年春も16日間で1295台となる。

- 平成27年から平成28年にかけて利用台数は1.6倍増加している。トータルが増えたのは看板の増加、チラシの設置箇所の増加によるものとする、市内の渋滞解消に貢献していることは間違いない。これは行政効果である。
- 市役所駐車場のP&Rにおけるレンタサイクルの利用状況はどうか。
- レンタサイクルは毎年増加している。ピーク期に自転車160台のうち、利用が180台で、台数が足りていない。平成27年春は総貸し出し台数が1152台に対し、今年は1426台に増加している。増加の原因のひとつとしては、リピーターが非常に多いこと。そこに加えて新しく看板等を設置したことにより、利用がさらに増えていると考えている。
- P&R駐車場に自動車を停めた後の交通手段について把握しているのか。
- 駐車場からの移動手段について、アンケートで把握している。
- 経年変化を追っていただきたい。
- 了解した。

### (3)平成28年秋期の取組内容（案）について

- 中心市街地への車両流入方向はどのように把握しているのか。
- 奈良中心市街地への侵入経路という形で、アンケート調査で把握している。
- P&Rの誘導看板について、京都方面から旧国道24号を進むと、ならやま大通りで国道24号へ誘導するため、現行の誘導看板では遠回りになっている。
- 今年の春期は、県境を越えて京都側にも看板を設置していた。しかし、京都府内は設置箇所等に制限があり、今後の対応について現在検討している。
- アンケートで把握している西からのルートは大宮通りだけか。
- 西からの進入については、大宮通りだけである。
- 調査から得られた知見や、現存のデータを利用し、事業の再効率化を図っていただきたい。
- 了解した。

### (4)連携計画の見直し方針

- アクセスナビのホームページは中国語用のサイト等があるのか。
- 他の言語のサイトはないが、ホームページの変換機能を利用している可能性がある。現在、主要な施策については英語版のページの製作を進めている。
- アクセスナビの検索は、キーワードとしてどのようなものがヒットしているのか。
- 広報では「奈良 アクセスナビ」で検索するように案内しているが、どういったキーワードでヒットしているかは把握できていない。
- チラシを置くことも重要だが、ホームページをもう少し充実させるべきと考える。
- 3点質問がある。1点目、モビリティ・マネジメントは、奈良市内の中小企業等の通勤者も対象にしてはどうか。2点目、京都や神戸からレンタカーで来られる方の統計等は取っていないのか。最後に、大型車の奈良市内への流入状況について把握してはどうか。

- モビリティ・マネジメントは、市役所で、「エコ通勤優良事業所認証制度」を取り、それを奈良市内の各事業所に広げたいと考えている。
- 市内の事業所でもモビリティ・マネジメントを積極的に導入するように進めていただきたい。
- 次に県の観光部署に確認したが、レンタカー利用に関するデータはない。近年は海外からの個人旅行者が増加していると考え。歩行者系の標識は、4か国語表記を基本とし、多言語標記を基準に案内サインガイドラインを策定している。
- 今後レンタカーの動向のデータ収集も検討いただきたい。
- 3点目の大型車の流入について、交通量調査等で把握しているのか。
- 把握している。天理インターから有料となるので、そこから奈良市内に大型車が流入している。大型車の迂回策等は現在検討している。
- エリアを絞って大型車の通行禁止とすることや、有料区間を無料にするなどの施策が考えられる。
- 今問題になっているのは料金体系で、名阪国道の一部有料化、環境ロードプライシング等の実施が考えられるが、ネットワークの形状と料金を含めた検討が必要である。ロードプライシング等の施策も考えられるが、日本では導入しにくいという現状がある。
- 京奈和自動車道の奈良インターが平成30年代半ばにできる。これにより、街中への車両の流入増加が想定される。奈良インターが新設されると、P&Rをどの場所で開催し、どの程度の容量を整備するのか、再度検討すべきである。
- 県営プール跡地にP&Rの機能を持たせる、あるいはバスターミナルを作ることが概ね決定している。P&Rについては、料金体系等含め検討していきたい。
- 奈良町南観光案内所やJR京終駅前の案内誘導看板は、いまひとつ活用できていないと感じる。上手く活用する方法を検討いただきたい。
- 現在、市とJRが連携して京終駅を活用しようと議論している。JRも前向きに検討しており、市としても責任をもって進めていく。
- この議事については以上の形で見直しをさせていただきたい。

#### (5)設置規約等の改正

- 規約の改正について、事務局の提案内容で承認されました。

以上